（1）　主題名　よりよい生き方の追求〔中学校１－（４）　関連項目〔１－（５)〕
（2）　ねらい　よりよい生き方に対し理想を持ち，人間の真の幸福とは何かを求め，その実現をめざして，自己の人生を切り拓いていこうとする態度を育てる。
（3）　資料名　「クリームパン」（出典：文部省；中学校　真理や学ぶことを愛する心を育てる）

資料の概要
　主人公の新一は定時制高校の４年生，父親は小規模ながら一代でパン屋を興し，丹精込めて作り出したその味は近所でも評判であった。しかし，一人息子の新一は，将来ロックバンドで有名になりたいという夢を持っていた。新一は家業を継ぐようううるさく言う父親に対して次第に反抗的な態度をとるようになり，最近はパン屋の修行にも身が入らない状態になっていく。そんなある日，常連客の１人が亡き祖父のためにとクリームパンを買いに来た。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　「命」とそれを支える「食」について，考える。	○これまでの人生で何度の食事をしただろう？また，自分だったら最後の食事には何を選ぶだろう。 ・１年間に1000回は食べているかな？だとすると… ・やっぱり自分の一番好きな○○○を食べたいと思うかな	○教師自身の考えも紹介し，生徒の興味付けにつなげる。
展開	2　資料の前半を読んで，父親と新一の心情に対して共感的にとらえる。 3　資料の後半を読んで，新一の心の変化について考える。	○「バンドなどやめて家業のパン屋を継いでほしい」という父親の気持ちをどう思うか。 ・子どものことも考えているし，わかるような気もする ○「今はバンドに夢中だし，できれば有名になりたい」という新一の気持ちをどう思うか。 ・一度しかない人生だし，やりたいことを続けたいというのはわかる ○なぜ（どういう思いから），長谷川さんはクリームパンを買いに来たのだろう。 ・祖父が生前こよなく愛した，この店の「クリームパン」を供えるため ◎「パン作りは地味でつまらない」と思っていた新一の気持ちを変化させたものは何だろう。 ・利益より誠意を貫いた，父親のパン作りにかけた情熱 ・地道でも頑張ったことは，必ず誰かがわかって（喜んで）くれる	○資料のような親子の会話に似た経験が，自分にもなかったか考えさせる。 また，自分はその時どう思ったか，など両者の立場にたたせ共感できるようにする。 ○「冥土の土産」という語句を説明し，パンがおいしからという理由だけでないことに気付かせる。 ○新一の心の中で変化した「かっこよさ」「喜び」が以前とは大きく変わろうとしていることについて理解させる。
終末	4　将来の自分の職業観について展望をもつ。	○主人公新一が心に誓った「自分なりのパン」というのは，どんなパンだろう。 ・真心を込めて作ったパン ・いつかだれかに喜んで食べてもらえる「本物」のパン	○全ての「職」を通じて言えることであり，将来の生き方（進路）につながることを理解させる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

主人公の新一は，当然のごとく敷かれた父親の後を継ぐ道と，多くの人に認められ注目されたいという自分自身の夢との狭間で揺れ動いていた。地味な仕事と派手な仕事という対照的な職業観に対して，仕事をする上だけでなく，生きていく上での真の「喜び」とは何なのかということを考えさせるよい題材であると思われる。

２　指導過程の工夫

本資料をもとに，将来に向けて利益や名誉以上の職業的価値観を身に付けていこうとする意欲につなげていきたい。漠然とした将来像は持っていても，なぜ，何のためという具体的なものを持っている者は少ない。ややもすれば，安定した仕事，かっこいい仕事，収入の多い仕事など，表面的なことにとらわれてしまいがちであるが，主人公の新一もそうした一人であった。その新一が，なぜ父親のような仕事も悪くないと思うようになったのかについて考えることを通して，すべての「職」に共通である，生きることの喜びや将来を展望した進路の実現につなげていけるよう工夫をした。

３　発問の工夫

主人公である新一の心を変化させる大きな力となった常連客の思いを中心に発問を構成した。資料中に記述されている「冥土のみやげ」というものを，どのように理解させるかが難しかった。これも職業観と同様「味」や「値段」という表面的なものではなく，新一の父親のパン作りにかける「情熱」や「誠意」に裏付けられたものであることを理解させることが必要であった。

４　生徒の反応

新一の父親の生き方に共感を持つ生徒が多かった。「かっこよさ」を表面だけでなく，内面からも見つめようとしていた。しかし，「本物」の持つかっこよさは理解しながらも，具体的に自分自身の将来の生き方にどうつなげていくかという点では，まだ十分とは言えず，これから自分を見つめ目標を定めていくための指導を継続する必要性を痛感した。

５　授業後のフォローアップ

本資料をもとにした生徒の感想は，学級通信などに載せ，生徒間だけでなく保護者へも紹介した。進路を控えた３年生を対象に実施したが，目前にせまっている中学校卒業後の進路のみならず，１０年先・２０年先を見据えた将来像を描くときの，職業観へとつなげていきたいと考える。

また，本題材は保護者参加型の授業としても実施できるのではないかと思われる。実際に生徒の中にも，将来，家業を継ぐであろうと考えている者もいる。そうした生徒の場合，多くは将来の職業を自らが決定したという意識が持てていないため，主人公の新一と同様，反発や迷いを抱きやすいのではないだろうか。親の思いや考え方についても実際に触れていくことを通して，生徒自身の思いと重ね合わせ，将来の仕事についても共感させていくことも可能になると思われる。

（清和中学校）